

## 令和８年度千葉市動物保護指導センター収容動物管理等業務仕様書

千葉市が収容動物管理等業務の委託契約するにあたり、以下のとおり仕様を定める。

### 1 名称

令和８年度千葉市動物保護指導センター収容動物管理等業務

### 2 業務履行場所及び施設概要

#### (1) 業務履行場所

千葉市動物保護指導センター

千葉市稲毛区宮野木町４４５－１

#### (2) 施設概要

##### ア 建物面積

(ア) 収容棟 771 m<sup>2</sup> (鉄筋コンクリート総２階建)

(イ) 管理棟の一部等

##### イ 平面図 別紙１のとおり

##### ウ 動物の最大収容頭数

犬３８頭、猫４０頭（但し、災害や多頭飼育崩壊等の有事の際はこの限りでない。）

### 3 委託期間

令和８年４月１日から令和９年３月３１日まで

### 4 業務従事者及び業務時間

業務は通年で行うこととし、従事者及び業務時間は以下のとおりとする。

また、受託者は、原則、業務時間内に業務をすべて終了するものとする。

#### (1) 従事者

本施設に職員として従事者３人を置くものとする。

#### (2) 業務時間

ア 動物保護指導センター開庁日（以下、「平日」という。）は、原則として、次の勤務時間とする。

(ア) ８時４５分から１６時１５分まで（２人）

(イ) ９時１５分から１７時００分まで（１人）

(ウ) 休憩時間は原則として１２時００分から１３時００分までとする。

- (3) 動物保護指導センター閉庁日（千葉市の休日を定める条例（平成元年4月16日条例第1号）第1条第1項に規定する休日（以下、「休日」という。））

ア 従事者

1人

イ 業務時間

(ア) 9時00分から17時00分まで

(イ) 休憩時間は原則として12時00分から13時00分までとする。

## 5 業務従事者の要件

- (1) 受託者と直接雇用関係にある者。
- (2) 原則1人以上常駐者を置くこと。なお、動物の飼養管理が継続的に行えるよう、飼養管理に必要な内容を書面により翌日の従事者に引き継ぐこと。
- (3) 閉庁日については、当該業務に従事した者の中から配置すること。
- (4) 従事者の半数以上は、愛玩動物看護師、家庭犬しつけインストラクター、ペットシッター士等の資格を有する者、動物の看護・飼育・トレーニングに関する専門的教育を受けた者、または1年以上の犬猫等の飼養管理を業務として行った経験を有する者を配置すること。
- (5) 市民対応が適切で、動物愛護の理念を尊重し、愛情をもって動物に接することができる者。
- (6) 人慣れしていない等、気性の荒い動物でも対応可能で、収容された動物を安全に取り扱うことができる者。
- (7) 乳飲み等の幼若動物や、負傷している動物にも対応可能で、感染症の罹患に配慮し管理できる者。
- (8) 本業務にあたり、必要な研修に従事開始日までに従事者に実施すること。

## 6 名簿等の提出

- (1) 受託者は、契約締結後、勤務開始日より前に、従事者の氏名、年齢、性別、動物飼養管理の経験年数、資格を明記した名簿を作成し提出すること。
- (2) 従事者の変更が生じた場合は、速やかに委託者へ届け出るとともに、勤務日開始日より前に、上記(1)の名簿等を提出すること。
- (3) 受託者は月の配置表を前月25日までに提出することとし、変更があった際は速やかにセンターへ書面にて報告すること。

## 7 業務内容

業務内容は別紙2のとおりとする。

## 8 業務報告等

- (1) 受託者は、業務の従事に当たっては、関係書類と収容動物の個体を照合すること。
- (2) 受託者は、業務の実施状況について、従事者に業務日報（様式第1号）及び健康観察表（様式第2号）を作成させ、翌日午前（翌日が休日の場合は、次の平日とする。）までに動物保護指導センター所長に提出させること。
- (3) 受託者は、収容動物が飼養管理中に死亡した場合、死亡報告書（様式第3号）により動物保護指導センター所長に報告すること。
- (4) 受託者は、動物保護指導センターの施設設備等に故障並びに破損が生じた時は、事故報告書（様式第4号）により動物保護指導センター所長に報告すること。
- (5) 受託者は、異常事態を発見した場合、その箇所を確認するとともに、事故の発生防止及び拡大防止に努め、速やかに動物保護指導センター所長に報告すること。

## 9 費用負担の区分

### (1) 受託者の負担

被服、消耗品及び薬剤のうち、以下の物品は受託者が負担する。

#### ア 被服

作業服、靴

#### イ 消耗品

トイレットペーパー、ティッシュペーパー、洗濯洗剤（従事者用）

#### ウ 薬剤

害虫捕獲用粘着トラップ、害虫防除用薬剤

### (2) 委託者の負担

飼料、消耗品及び薬剤のうち、以下の物品は委託者の負担とする。

なお、施設設備の故障修理等は委託者が行い、その費用は委託者が負担する。ただし、簡易な不具合等の修理は受託者が行い、その修理に必要な補修材料費等については委託者が負担する。その際、修理等に必要な工具類は、委託者の承諾を得て使用する。

#### ア 飼料

収容動物の餌

#### イ 消耗品

清掃用具、清掃用洗剤、洗濯洗剤（収容動物用）、動物用シャンプー、

ペットシート、新聞紙、猫のトイレ用品（材料）、猫砂、使い捨て手袋  
ウ 薬剤

動物用医薬品

消毒薬

(3) 区分が不明な物品等

業務遂行上、新たに必要になった物品等について、費用負担区分が不明確なものについては、必ず事前に委託者と協議すること。事前協議をせず受託者が独自の判断で購入もしくは借り受けた物品等に係る経費は、受託者の負担とする。

1 0 従事者控室及び備品の貸与

従事者の控室は収容棟管理室とする。また、次の備品を貸与する。

- (1) ロッカー 8 個
- (2) 事務机 5 台
- (3) 事務用椅子 5 脚

1 1 秘密の保持及び目的外使用の禁止

受託者は、この契約による委託業務を行うに当たり、知り得た事項を他人に漏らしてはならない。また、知り得た事項を、本委託業務の契約書及び仕様書等に掲げられた目的以外に使用又は公表することを禁ずる。この契約による事務に関して知り得た個人情報をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に利用してはならない。この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。

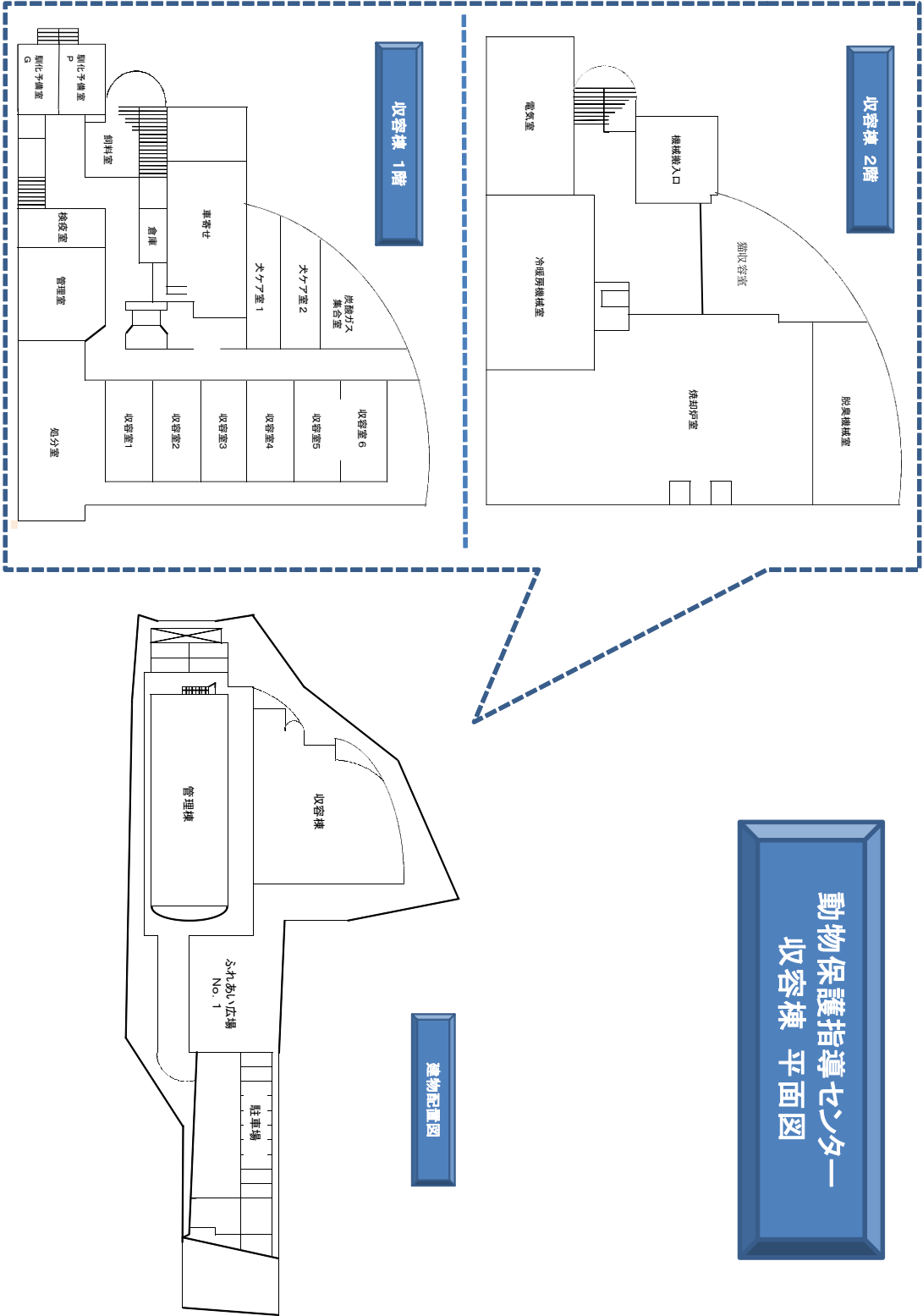
1 2 その他

- (1) 従事者は、業務履行時間は休憩時間を除き動物保護指導センター内にいること。
- (2) 受託者は、常に委託者の方針及び指示に従い、市民対応に当たっては適切な接遇を心がけ、また、設備に関しても適正な運転管理を行うこと。
- (3) 収容動物を飼養及び管理するに当たり、適正な取扱いを行うこと。  
なお、従事者が動物に咬まれる等、収容動物に起因する事故が発生した場合は受託者の責任とする。
- (4) 業務の履行に当たり、受託者の不注意等により生じた故障、破損、事故、紛失等は、全て受託者が責任を持って措置し、原状回復すること。
- (5) 受託者は、従事者が病気等やむをえない事情による欠勤、遅刻、早退をする場合は、速やかにセンターに連絡するものとする。また、従事者が、

病気・休暇等により就業できないときは、受託者は可能な限り代替者を配置するものとする。

- (6) 受託者は、翌年度の受託者が決定した後、10日間以上の期間を設けて業務内容の引き継ぎを行うこと。
- (7) この仕様書に定めていない事項については、双方協議のうえ、これを決定する。

収容施設の平面図



収容動物管理等の業務内容

1 収容動物の飼養管理業務

獣医師職員の指示により、以下の業務を行うこと。

獣医師職員は、必要に応じ指示書をもって指示を行うこと。

(1) 給餌及び給水

ア 給餌

(ア) 収容された動物の年齢や体重をもとに、原則、朝、夕方各 1 回、計 2 回、適切な量を給餌すること。

(イ) 幼若動物、高齢動物及び負傷動物等については、動物の健康状態や感染症のリスク状況に応じて給餌内容、量、回数を適正に調整すること。

(ウ) 給餌は幼若動物から行うものとし、幼若動物は始業後 1 時間以内に 1 回目の給餌を、終業前 1 時間以内に最終回の給餌をすること。

イ 給水

常時、収容動物が飲水できるよう給水すること。

(2) 投薬補助

以下の事項を遵守して行うこと。

ア 動物の個体ごとの投薬指示書（様式第 5 号）に従い投薬を行うこと。

イ 業務従事者の自己判断による投薬及び獣医師職員以外の指示による投薬は行わないこと。

(3) 治療等補助

ア 動物の体重測定を行うこと。

イ 治療等の際、必要な保定等の補助を行うこと。

ウ 検査材料等の採取保存を行うこと。

(4) 健康観察

食欲、便、動作等について、原則、朝、昼、夕方各 1 回、計 3 回、動物を観察し、健康観察表（様式第 2 号）に記録すること。

異常を発見した場合は、速やかに獣医師職員に報告すること。なお、発見した異常便等は、獣医師職員が確認するまで保存しておくこと。

(5) しつけトレーニング

人慣れしていない収容動物に対しては、譲渡促進を目的に、人への危険が伴わない範囲で以下のような馴化訓練等を行うこと。実施は原則平日とし、方法については委託者と事前協議すること。

#### ア 犬の運動

収容されている犬について、可能な限り 1 日 1 回以上ふれあい広場にて散歩を行うこと。

#### イ 犬のトレーニング

収容されている犬について、獣医師職員及び動物保護指導センターが委任したトレーナーの指示のもと、オヤツ等を用いたしつけトレーニングを行うこと。

#### ウ 猫の馴化

収容されている猫について、オヤツ及び遊具を使用した簡単なふれあい等を行うこと。

#### (6) シャンプー及びグルーミング等

収容動物の体表が著しく汚れている場合、以下のとおり行うこと。

動物用シャンプーと温湯を使用し、汚れを落とした後、タオル、ドライヤーを用いて体を乾かし、ブラシを使用し被毛を整えること。また、必要に応じて、動物用爪切りはさみで爪切りを行うこと。

### 2 動物の引取り、返還を補助する業務

#### (1) 収容及び返還等

収容動物を所定の場所に移動する業務を補助すること。

### 3 譲渡を補助する業務

#### (1) 譲渡適性評価の補助

収容動物を適切に譲渡するため、動物の性格や行動等を獣医師職員へ情報提供するとともに、譲渡適性の評価試験について獣医師職員の指示のもと補助すること。

#### (2) 収容動物の画像等の撮影及びその補助

譲渡動物の市民への紹介用の写真や動画を撮影し、また、動物ごとの性格や性質等の情報を獣医師職員へ提供すること。

#### (3) 譲渡見学者の案内

獣医師職員が事前に譲渡審査を行った、譲渡希望の見学者に対し、獣医師職員と共に譲渡動物を案内し、動物の性格、行動及び管理上必要となる事項等の説明を行うこと。



#### 4 収容棟施設の清掃及び消毒等業務

飼養施設を清掃する際は、収容動物のストレス軽減のため、スポットクリーニングを実施すること。

また、委託者が指定した消毒薬等を使用し、以下の手順で行うこと。

##### (1) 犬の収容室およびケア室

###### ア 壁及び床

(ア) 糞をヘラ、ちりとり等で取ること。

(イ) 汚染箇所を毎日ブラシで水洗すること。また平日は可能な限り犬の不在時に清掃すること。(汚れがひどい、又は一部汚れの付着等がある場合は、汚染箇所を都度清拭すること。)

使用していない収容室は月に1回水洗すること。

(ウ) 水洗後は、ワイパーで水を除去し、乾燥させること。

(エ) 収容動物に下痢等の感染症が疑われる場合、又は、当面当該収容室を使用しない場合は、水洗後、消毒薬を散布すること。10分以上放置した後、消毒薬を除去し、乾燥させること。

(オ) 作業に使用した用具を水洗、消毒、乾燥させること。

###### イ 個別ケージ

(ア) ケージ内の糞等汚物を取り除き、汚れた箇所を拭き取ること。

(イ) ペットシート等が汚れていれば交換すること。

(ウ) 下痢等でケージの汚れが著しい場合は、水洗あるいは布等で清拭後、ケージ全体に消毒薬を散布すること。10分以上放置した後、消毒薬を除去し、乾燥させること。

(エ) 使用後のケージは、中性洗剤を使用しブラシで洗浄後、ケージ全体に消毒薬を散布すること。10分以上放置した後、消毒薬を除去し、乾燥させること。

###### ウ 空調設備

扇風機は1シーズン1回程度、独立型エアコンディショナーは月に1回、定期的に翼又はフィルターの清掃を行うこと。フィルター清掃を行った場合はエアコンフィルタの点検表(様式第6号)に記録すること。

###### エ 空気清浄機

月に1回を目安に定期的にフィルターを清掃すること。

## (2) 猫の収容室および検疫室

### ア 壁及び床

汚れを認めた場合は取り除き、必要に応じブラシで水洗または清拭すること。

### イ 個別ケージ

(ア) 犬の個別ケージの方法に準じ行うこと。

(イ) 猫のトイレはプラスチック製容器または紙製のトイレを使用し、プラスチック製のトイレは汚れたら都度敷物は交換し、容器を拭き取ること。紙製のトイレは汚れたら都度捨てて新しくすること。

(ウ) 使用後のケージは、中性洗剤を使用しブラシで洗浄後、噴霧器で熱消毒を行い、ケージ全体に消毒薬を散布すること。10分以上放置した後、消毒薬を除去し、乾燥させること。

### ウ ケージ棚

汚染箇所を拭き取り、洗浄消毒し、水拭きで消毒薬を除去し、乾燥させること。

### エ 独立型エアーコンディショナー

月に1回定期的にフィルターを清掃すること。(2階猫収容室は除く) フィルター清掃を行った場合はエアコンフィルタの点検表(様式第6号)に記録すること。

### オ 空気清浄機

月に1回を目安に定期的にフィルターを清掃すること。

## (3) 猫の馴化予備室及び馴化室

### ア 壁及び床

(ア) ほうき、ちりとり等でごみ等を取ること。

(イ) 布等で清拭すること。使用した布等は都度廃棄すること。(週1回行うこと。汚れがひどい、又は一部汚れの付着等がある場合は、汚染箇所を都度清拭すること。)

### イ 猫トイレ

猫トイレには大型プラスチック容器を使用し、砂を充填すること。砂が尿で固まった部分、糞便を除去し、砂が少なくなったら補充すること。

なお、下痢便、血便等の異常便を発見した場合は、獣医師職員が便を確認するまで、そのままにしておくこと。

4週間を目安に、砂をすべて新しいものに入れ替えること。

### ウ 独立型エアーコンディショナー

月に1回定期的にフィルターを清掃すること。

フィルター清掃を行った場合はエアコンフィルタの点検表(様式第6号)

に記録すること。

エ 空気清浄機

月に1回を目安に定期的にフィルターを清掃すること。

(4) 動物用クレート及びキャリー等

動物の運搬等で使用したクレートやキャリー等は、ペットシート等を除去し、中性洗剤を使用しブラシで洗浄後、ケージ全体に消毒薬を散布すること。10分以上放置した後、消毒薬を除去し、乾燥させること。

(5) 通路等

ア 通路は水洗又は清拭し、必要に応じて消毒を行うこと。

イ 内履の管理を行うこと。(定期的な洗浄、消毒、乾燥。)

(6) 食器等

犬

ア 使用後の食器は、中性洗剤を使用し洗浄し、よく汚れを除去すること。

イ 洗浄後、ビルコン100倍希釈の消毒槽に10分間浸すこと。

ウ 消毒後、よく水洗し、乾燥させること。

猫

ア 使用後の食器は、中性洗剤を使用し洗浄し、よく汚れを除去すること。

イ 洗浄後、90℃以上の湯に食器を浸し、30分間放置すること。

ウ ビルコン100倍希釈の消毒槽に10分間浸すこと。

エ 消毒後、よく水洗し、乾燥させること。

(7) ねずみ・昆虫の防除及び駆除

収容棟施設全体について駆除を実施し、ねずみ・昆虫の発生を防止すること。

原則、粘着トラップにより実施するが、委託者から別途指示があった場合は薬剤等により実施すること。

また、開封後の餌は放置せず、蓋付きの容器に保管することとし、ねずみ・昆虫の発生を防ぐこと。

(8) その他

上記(1)～(5)のほか、従事者用控室、トイレ、飼料室等収容棟施設についても定期的に清掃を行うこと。

5 感染症及び感染症の疑いがある場合

収容動物において、重篤となる感染症に罹患又はその感染症の疑いがある場合は、獣医師職員の指示のもと、必要な手順で防護を行い、動物の管理、飼養施設や食器等の清掃及び消毒を行うこと。

6 その他センター業務への協力

収容動物の管理に支障のない範囲でセンター業務を行う。

実施にあたっては獣医師職員の指示のもと行う。

(1) 飼い主のいない猫の不妊手術に関する業務の補助

ア 手術で使用した術衣、術布等の洗濯

イ 手術で使用した鋼製小物等の洗浄

ウ 預かった飼い主のいない猫の給餌・給水

7 収容棟における機械類の始業及び終業点検業務

(1) 空調、暖房器具

収容室の適温・適湿状態を確保すること。

(2) 照明

こまめに消灯し、節電に努めること。